

群馬県畜産試験場研究基本計画 (案)

令和8年3月策定（予定）
群馬県畜産試験場

目 次

第1章 策定の考え方 -----	2
1 趣旨 -----	2
2 位置づけ -----	2
3 性格 -----	2
4 期間 -----	2
5 組織機構等との関係 -----	3
第2章 研究の基本的な考え方 -----	3
1 地域に根ざした技術開発の推進 -----	3
2 研究の重点化と計画的な進行管理 -----	3
3 研究成果の普及と技術支援 -----	3
4 社会的な貢献 -----	3
第3章 畜産研究の重点目標 -----	3
1 ぐんまブランドの確立のための研究開発【需要拡大】 -----	3
2 生産性の向上と持続可能な経営のためのスマート畜産技術等の研究開発 【生産性向上】 -----	4
3 気候変動への対応と環境負荷低減・資源循環型畜産を推進する技術開発 【環境との調和】 -----	4
4 「農業農村振興計画 2026-2030」の業績評価指標に対する目標 -----	4
第4章 農業研究の推進に関する施策 -----	5
1 研究企画・評価機能の強化 -----	5
2 外部との連携による研究力強化と人材育成 -----	5
3 研究不正の防止 -----	5
4 研究の効率化と予算確保 -----	5
5 研究成果の活用促進と発信力強化 -----	5
6 県民とのコミュニケーションの確保 -----	5
7 推進体制 -----	6

第1章 策定の考え方

1 趣旨

群馬県の畜産は、大消費地である首都圏の有利な立地条件をいかし、高度経済成長による食生活の変化を背景とした畜産物の需要増大に合わせて発展してきました。その産出額は 1,327 億円（令和 6 年次）で、県の農業産出額の 46.3% を占める基幹部門となっています。また、畜種別飼養頭羽数では、乳用牛が 31,900 頭（全国第 5 位）、肉用牛が 56,400 頭（11 位）、豚が 610,800 頭（第 4 位）、採卵鶏が 9,765 千羽（第 5 位）（令和 6 年 2 月 1 日現在）と全国有数の畜産県です。

近年の畜産業は、飼料をはじめとした生産資材価格の高止まりに加え、担い手の減少や高齢化、畜産環境問題への対応など、数多くの課題に直面しております。加えて、温暖化による気候変動は、家畜の生産性低下や伝染性疾病発生に大きな影響を及ぼしています。

こうした、情勢の変化を踏まえ、国では、「みどりの食料システム戦略（令和 3 年 5 月）」において、環境と調和のとれた食料システムの確立の推進を明確化し、また、「食料・農業・農村基本計画（令和 7 年 4 月 11 日閣議決定）」において、スマート農業技術の開発促進と新たな生産・流通等の方式の導入、環境負荷低減の取組の推進等を通じて食料安全保障を強化する方針を提示しました。加えて、食料・農業・農村基本計画に基づく研究開発の重点事項や目標を定める「農林水産研究イノベーション戦略」を毎年度策定しています。

本県においても、農業の環境との調和による持続的発展を目指し、「群馬県みどりの食料システム基本計画（令和 5 年 3 月）」を策定しました。また、「新・群馬県総合計画（令和 3 年 10 月）」の理念に基づき、「（新）群馬県農業農村振興計画（令和 8 年 3 月）」を策定し、安定的な食料生産や環境と調和した食料システムの確立等の視点による本県農業の将来ビジョンと施策の展開、推進方策等を提示したところです。

畜産試験場では本県畜産業の持続的な発展に貢献するため、行政施策の推進と連動し、多様化する消費者ニーズへの対応、畜産物の付加価値向上、生産性の大幅な向上、畜産業における環境との調和等に関する研究開発に取り組み、畜産経営の収益力向上を図っていく必要があります。そこで、重点的に取り組むべき研究開発等の目標を明確にし、計画的かつ効率的な研究の推進を行うため、令和 12 年度を目標年とする「群馬県畜産試験場研究基本計画」を策定しました。

2 位置付け

この計画は、群馬県農政の基本指針である「群馬県農業農村振興計画（令和 8 年 3 月）」の推進のために必要な、技術開発分野を担当する「部門計画」として位置付けるものです。

3 性格

この計画は、畜産の中長期的な展望を見据え、重点的に取り組むべき研究目標とこれらを支援する施策を明示したもので、令和 8 年度以降の畜産研究は、本計画に即して実施します。

4 期間

この計画は、令和 8 年度を初年度とする 5 か年計画（令和 8~12 年度）とします。

5 組織機構等との関係

この計画は、令和 7 年度時点における畜産試験場の組織機構、人員体制、そしてその基盤となる行政ニーズを踏まえ、果たすべき役割や機能を前提として策定したものです。今後、社会情勢や行政ニーズの変化に応じて、県としてこれらを見直す場合にあっては、当該見直しに連動し、研究課題など本計画の内容についても適宜見直しを行います。

第 2 章 研究の基本的な考え方

1 地域に根ざした技術開発の推進

生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組むとともに、本県の豊かな自然環境を活用した魅力と競争力のある畜産業の実現と関連産業の発展に資するため、群馬県の将来の畜産業を切り拓くスマート管理などの革新的な技術開発に取り組みます。

2 研究の重点化と計画的な進行管理

試験研究の課題設定にあたっては、研究課題の重点化を図り、技術開発から成果移転までを見据えた課題とし、重点となる研究課題については、行政組織等との連携、国立研究開発法人、大学、民間企業等との産学官連携による共同研究を推進し、役割分担を明確にした取組により、効果的、効率的な研究を実施します。

研究の進行管理にあたっては、5 年先の令和 12 年度に達成すべき具体的な目標を定め、その達成が図られるよう計画的に推進します。また、研究課題評価システム、事前・中間及び事後評価の結果並びに施策の展開状況等を踏まえ、必要に応じて研究課題や研究実施体制を見直します。

3 研究成果の普及と技術支援

研究者は、課題設定から研究成果の生産現場への普及、定着までが研究活動であることを再認識し、研究成果の受け手と様々な機会を利用して密接な連携を図り、研究成果の迅速な移転や行政部局による活用が進むよう積極的に取り組みます。

また、研究成果が効果的に生産者等に活用されるよう関係機関や生産現場との連携強化を図り、技術支援を進めます。

4 社会的な貢献

畜産試験場は畜産分野における公設試験研究機関として、研究成果の公益的な活用、社会経済への貢献等、その役割を果たし、広く県民への利益還元を目的とした取組を進めます。また、研究内容、業務の透明性を確保し、県民から信頼と理解を得られるよう努めます。

第 3 章 畜産研究の重点目標

1 ぐんまブランドの確立のための研究開発【需要拡大】

群馬県産畜産物のブランド力を強化することは、消費者の信頼を獲得するとともに、他産地との差別化を可能にし、県内生産者の収益向上につながります。

畜産試験場では、遺伝的多様性に配慮しつつ、ゲノミック評価等を活用し、生産性向上と消費者ニーズ等に応じた改良を進めます。改良成果は講習会やホームページ等で広く知らしめるとともに、牛の受精卵や豚精液の配布、上州地鶏のヒナの供給を通じて、県内生産者に還元し、消費者に選ばれるブランド化を推進します。

加えて、これら家畜の能力を最大限に発揮させるための飼養管理技術の開発にも取り組みます。

2 生産性の向上と持続可能な経営のためのスマート畜産技術等の研究開発【生産性向上】

スマート畜産技術は、労働力不足や高齢化といった畜産業の構造的課題を解決するため、国や自治体の支援を受けながら導入が進められています。スマート機器は導入費用が高額である一方、多様な機能を備えており、適切に活用することで経営における重要な戦略的資源となります。しかし、活用度には個人差が認められ、導入効果は利用者のスキルや習熟度に依存する傾向があり、十分な費用対効果が得られない場合もあります。

畜産試験場では、省力化、低コスト化及び生産性向上に資する、費用対効果の高いスマート機器を活用した飼養管理技術及び栽培技術の研究開発に取り組みます。

3 気候変動への対応と環境負荷低減・資源循環型畜産を推進する研究開発【環境との調和】

地球温暖化による気候変動が、家畜や飼料作物の生産に影響を及ぼす一方、畜産業も温室効果ガスの排出量低減が求められています。

畜産試験場では、将来にわたり持続可能な畜産経営を実現するため、近年の高温に対応した家畜の改良や飼料作物品種の選定など、適応策に関する研究開発に取り組みます。また、畜産業における環境負荷低減のため、生産性や収益とのバランスを考慮しつつ、温室効果ガスの削減や環境負荷低減型飼料の活用に関する研究開発を進めます。

さらに、家畜排せつ物の適切な管理・活用や化学肥料使用量の削減による環境負荷低減に関する研究開発に取り組みます。

加えて、人と家畜の健康維持やアニマルウェルフェアの向上を目指し、安全な畜産物の生産に関する研究開発を推進します。

4 「農業農村振興計画 2026-2030」の業績評価指標に対する目標値

「農業農村振興計画 2026-2030」の目標指標	基準年 R6 (件数)	目標年 R12 (件数)
スマート農業等生産性向上に関する研究成果数	20	16
気候変動対策に関する研究成果数	1	4
環境負荷低減・資源循環型農業に関する研究成果数	2	2

注)【需要拡大】と【生産性向上】に関する研究成果は「農業農村振興計画 2026-2030」における「スマート農業等生産性向上」に、【環境との調和】に関する研究成果は「気候変動対策」及び「環境負荷低減・資源循環型農業」に関する研究成果数にカウントする。

第4章 農業研究の推進に関する施策

1 研究企画・評価機能の強化

畜産試験場は本県畜産業の発展に貢献するため、今後、研究ニーズの多様化、高度化に対応した試験課題の企画立案を行うとともに、施策に連動したプロジェクト研究などの共同研究のコーディネートを進め、研究成果の普及に向けた取組を展開します。

このため、毎年度、目標とする研究成果の達成状況を総合的に検証、評価し、その後の研究推進や新規課題に反映させます。特に、重要な研究課題については、外部委員を招聘した研究課題の事前及び事後評価を実施し、評価結果や施策の展開状況等を踏まえ、必要に応じて研究課題の方向性や研究実施体制を見直します。

2 外部との連携による研究力強化と人材育成

優れた研究成果を生み出すためには、資質の高い研究員の育成確保、技術の継承が必要です。畜産試験場では国立研究開発法人や大学等との連携や共同研究による研究開発力の向上と、研修、教育制度の活用による若手研究員の育成に努めます。

さらに、農業機械の整備、点検の実施、機械作業に必要な資格の取得や講習の受講を徹底し、場内での農作業安全に取り組みます。

3 研究不正の防止

研究活動では、研究成果の正当性が求められることや研究費の適切な使用が義務となることから、畜産試験場では研究倫理教育を計画的に実施するとともに関連する規程を定め、組織的に研究不正の防止をはかります。

4 研究の効率化と予算確保

畜産試験場では重点的な取組が求められている研究分野に研究資源（予算、人員等）を適切に配置することにより、研究開発を効率的に推進します。また、競争的研究資金制度の活用を積極的に進め、予算の確保に努めます。

研究施設、設備については、既存施設の合理化を進めつつ、効率的な維持管理や整備が図れるように、計画的な予算の確保に努めます。

5 研究成果の活用促進と発信力強化

畜産試験場では研究の企画段階から生産者、関係団体、行政及び普及組織等が連携し、受け手を明確に意識した研究成果の活用、普及、事業化を進めます。

また、開発した技術の「ぐんま農業新技術」としての公表、関係機関と連携した農業技術フォローアップセミナーや成果発表会の開催、研究報告の発行等を通じて、研究成果の積極的な普及、定着に取り組みます。

6 県民とのコミュニケーションの確保

試験研究の役割について、県民の理解を得るための取組が重要であることから、多種多様

な情報媒体を効果的に活用して、分かりやすい情報の提供や広報に努めます。

周辺地域、住民との交流に加え、インターンシップ等の体験学習や実習の受入れ、学校教育への貢献、大学の研究支援等を積極的に行い、地域に根ざした試験研究機関を目指します。

7 推進体制

群馬県畜産試験場研究基本計画は、畜産試験場及び農政部試験研究機関・行政等の関係機関を構成員とする「群馬県農業技術推進会議」のもとに推進します。